

まちだ未来の会第12回学習会

## 市民が考えた「公共施設再編計画」発表会！

- \*わたしたちの未来はもっと明るい
- \*公共施設の分散化と長寿命化が基本
- \*施設運営に市民の知恵と力を

日時：2018年4月15日（日） 午後2時～4時30分

場所：町田市民フォーラム 3F 和室（1）（2）

参加者：11名

### はじめに （司会：守谷）

昨年6月、市は再編計画の意見募集を行い、今第2回の意見募集をし、短期プログラム2018年から9年間の計画について、市内10か所で説明会も実施している。しかし、参加者は各会場20名程度、市役所が会場であっても、30名程度であった。意見募集の期限は4月20日。市民版再編計画を作成し、5月の学習会には、議員を呼んで話し合いたい。今日は6つの施設について議論したい。

### 現状報告 （代表：藪田）

未来の会が活動を始め、1年になろうとしている。市の計画の「建物と機能を切り離す」ことの問題点を指摘してきた。これは市が施設を減らす論拠になっている。市の財政計画は、大きな計画が伏せられたまま進められている。

### <市民が考える再編計画>（資料にそって説明）

#### ○学校：町田の学校はどうあるべきなのか、それが問題！（増山）

市内60校のうち、40年を経過している学校は50校。具体的なことは、地域がからむ問題なので出ていないが、市は複合化することを前提としている。学校は地域の拠点になるからとしているが、「それはちょっと待って」である。市は建物のことだけを考えていて、教育の中身については考えていない。学校を建設する場合、設計者は、地域や依頼者等関係者と何度も話し合い、どういう教育をしていくかというところから出発する。再編計画もそこから出発するべきである。安全性の確保、教育環境の確保の点から、多機能化の問題を検討していきたい。学校の運営費のひっ迫し、集約をはかるといふなら、学校施設+市民の施設を考え、今の施設を残すという案もある。複合化について市は団地内の学校名をあげている。市は、今年から9年間で計画を立て、2027年から36年で「適正配置」をするとしている。

#### 質疑

- ・雑学大学では、鶴川中学学校長、市教育委員長をされた佐藤先生の講演を予定している。学校は人口分布をにらんであるべき姿を論ずるべきではないか。学校によって教室がたりないところもあり、余っているところもある。

（増山）市は人口分布の資料は出している。1982年ピーク、その後減少し、2000年から増加が見られた。今ピーク時の65%、生徒数は33700名。今後1割増えるとされている学校は2校とされている。市の教育にたいする考え方をつめていく。

- ・学校に勤めていた者だが、複合化は難しい問題である。この会で複合化を可とするのはやめてほしい。

学校は子どもたちにとって解放されるだいじな場である。  
慎重にすべきである。

○図書館：“図書館は人類の英知の宝庫”当面 8 館体制を維持し、将来的には中学校区に 1 館を（鈴木）

基本的な考え方：図書館は、あかちゃんから高齢者まですべての年代の日々の生活を豊かにする宝庫であり、地域にとってなくてはならない施設。若い世代の人口減の問題を解決するためにも学校教育の充実にも欠かせない。

市の計画の問題点：「建物とサービス・機能を切り離して考える」とするところで、それ自体無理がある。複合化などの再編後の夢のあるイメージを描いて、現実にはイメージに描かれていない地域館をなくすということは、市民をだましていると言える。「暮らしやすいまちをつくる」というまちづくりプランにも相反する。「再編後のイメージ例」として、「他の施設と複合化することでより多くの人の図書に触れる機会が創出される」と書かれているが、すでに複合化している鶴川駅前図書館、堺図書館、忠生図書館で、それが論証されているだろうか？

イメージ例の 2 点目の「他の機能と連携することで、市民の活力を生かした図書に関連した新たなサービスが展開される」にいたっては、具体性がなく、また 2018 年に決定すると言っている 2 館の集約については、イメージに一切描かれていないというのは、欺瞞としか言いようがない。

市民版再編計画の方向と具体策：

1. 既存の図書館について：8 館を集約せず、維持。将来的には中学校区に 1 館で 20 館。学校の建て替えに伴い、順次学校に併設し、地域図書館と学校図書館の連携をはかる。

- ① さるびあ図書館は、一地域図書館だけでなく、移動図書館の拠点、学校やボランティア団体の支援拠点として重要な存在であり、使い勝手の改善とリフォームで長寿命化をはかる。
- ② 鶴川図書館は鶴川団地商店街の核的存在であり、手を入れながら維持。団地の施設建てかえ時に新しくする。
- ③ 木曾山崎図書館は、近隣の小・中学校の建て替えに伴って複合化。

2. 長期的な展望として：

- ① 長期的には、中学校区に 1 館の配置となるように、設置を希望する。中学校が 20 校に対し図書館は現在 8 館しかないので、不足の 12 館については、学校の建て替えに伴い、順次学校に併設し、地域図書館と学校図書館の機能の連携を図る。
- ② 図書館と学校図書館の連携を更に深めることで子どもたちの読書活動・図書館利用を推進。
- ④ 図書館をもっとまちづくりに生かす工夫をすることで、さらに図書館の可能性を広げる。
- ⑤ 公共施設の用途を変更し、全面改装を施して新しい建物に再生させて経費節減の道も探る。

3. 市の財政への対応では、図書館を市民の生活、教育の向上、文化の継承並びにまちづくりに生かすことで、人を呼び込むこともできるので、市の重点施策に入れて、図書館関係費を削減せずに長期的展望に立って予算を確保。建物にかかる費用については、維持費が少なくなる工夫、建物の長寿命化を図ることで、増大を抑える。資料費の削減が、蔵書構成の劣化を生み、利用者の減少につながるので、資料費を 2012 年から半減しているのを元の水準に戻す。

4. 直営による図書館運営を維持。指定管理制度は、総務省もトップランナー方式から図書館をはずしている。管理業者が利益を出すためさまざまな弊害がおきており、また、書籍購入を系列の企業からすることが多く、自治体内の書店が利用されず、表面上コスト減になっても本当の意味で自治体の財政にプラスになることはない。また、指定管理制度は 3 年から 5 年契約で継続的なサービスを維持することは困難であるほか、非正規社員を低賃金で雇うことで、ワーキングプアを作り出す温床にもな

る。図書館は学校と同様に教育機関であり、教育委員会の責任で設置し、直接管理運営するべき。

質疑

- ・市はまちライブラリーをすすめているが。南町田や、あけぼの病院にもある。  
(鈴木) まちライブラリーは、本のある場所ではあるが、公共の図書館の代わりになるものではない。
- ・図書館のネットワークは？  
(手嶋) 指定管理の図書館では、機能していない。

○福祉施設：きめ細かい配置を進める (蘭田)

基本的な考え方：福祉は、憲法が保障する「健康で文化的な生活」を可能にするために十分な予算配分が求められるが、現実には民営化がすすんでいるため、すきまができ、公的な福祉事業がセーフティネットを整える必要がある。

市の計画の問題点：高齢者福祉施設では、「建物とサービスは切り離しうる」と、建物の総量圧縮を図り、サービスを市民センターや学校等の地域の活動拠点に移す計画になっているが、実際移せる場所はない。市内6か所の高齢者福祉センターを残し、高齢者だけでなく、子どもや勤労者との交流の場として活用を考えていくことが現実的ではないか。有料老人施設については、ピンからキリまであり、行政の情報収集が必要であり、その役割が問われる。

障がい者福祉施設は、徹底した民営化が計画されている。現在ほとんどが民間で、市直営のひかり療育園については、事業の在り方を検討、民間活力導入となった場合は、運営方法を検討すると明記。すべての障がい者にサービスのニッチが生じないよう福祉団体間の調整をおこなったり行政の役割が必要であって、すべて民間に任せることはならない。

市民版再編計画の方向と具体策：当事者、その家族、支援団体との徹底した議論の積み重ねが必要である。要支援者と、市民と一緒に活動する交流拠点をつくりたい。

○スポーツ・健康施設を身近に (蘭田)

基本的な考え方：身近に「するスポーツ」が可能な小規模施設を散在させる。

市の計画の問題点：膨大な費用がかかる野津田公園の競技場について再編計画には一言も出てこない。

市民版再編計画の方向と具体策：・十分な情報公開を行い、市民スポーツの場として、市民参画のもとで新たな計画を策定する。・学校を生涯スポーツの場として活用するために、スポーツ施設を再点検し、必要な設備や運営方法を整える。・総合体育館、その他の体育施設を利用しやすいものとするため、申し込み方法などを改善する。また、既存の公園、遊休地を市民と協働した施設整備、プログラム開発を進める。健康スポーツは、スポーツ振興と、生涯学習、高齢者・障がい者福祉と協力関係を作り、相互に活用しあう仕組みを作る。

北部丘陵地帯の豊かな自然に市民参画のもとに「健康トレイルづくり」を進める。

○集会施設：町田駅周辺の集会施設を充実させる (守谷)

市は、市内14か所の施設の再配備、管理運営方法を検討するとして、数を減らすほか、社会教育施設としての縛りをなくしてなんでも受け付けることを考えており、今施設が足りず申し込みができにくい状況を全く考慮していない。本庁舎を土日市民に貸すことを考えてもいいのではないかと？

○美術館・博物館：本来の機能を大切にする (守谷)

町田市には、国際版画美術館、自由民権資料館、市民文学館といった他の自治体にはないユニーク

な文化施設があり、“住みたいまち”と思ってもらえる魅力となるもの。しかし、市の再編計画では、これらを含む7つの施設が対象となっている。短期プログラムの対象は、版画美術館（仮称・工芸美術館と一体的・指定管理運営）博物館（閉館）、文学館（存廃および運営見直し）、自由民権資料館（運営見直し）となり、博物館の歴史収蔵物は分散、出前（アウトリーチ）展示に利用すると言う。町田の文化・歴史資料をしっかりと後世に引き継いでいく自治体の重要な責務を考えていない。未来の会としては、6月7日の市議会に提示する対案を仕上げ、全議員におくる予定。美術館は教育施設、と市ははっきり言っているの、教育委員会から文化スポーツ振興部にうつしたものを、教育委員会に戻すべきである。

## 質疑

- ・文学館は、図書館の分館なのか？

法的にはそれぞれ独立したものであるが、役所の組織では、図書館長のもとに担当課長がいる。連携している。

- ・博物館、文学館をまわって、館長あるいは副館長に再編計画をどう考えるか話をしたところ、上から言われているから反対できないと言っていた。市長の号令で動いている。現場の学芸員はどう考えているのか？聞いても反応がかえってこない。自分の問題として動く人を集めないといけない。なにか別の方法を考えないと。

- ・一生懸命署名を集めた者として、怒っている。税金を払っている市民の声はどうなるのか？ 未来の会は基本を守ってやりあうべきだ。

(増山) 今回の意見募集の提出は、いまのところ前回より少ない。前回でも市民42万人中70名の意見しかでなかった。策定委員会も市民の提案は待っている。市民の声をもっと出さないといけない。

(守谷) これから、議員と話す。市長と話す。団体と話す。生涯学習センターで学習会をする。地区協議会と話す。新聞記者と話すことをやっていく。

- ・多摩市の方。多摩市では、「ない袖はふれない」という市に対して、市民ボランティアが動き、35億円削減を提案した。たとえば、文学館で市民ができることはないだろうか？

(守谷) あると思います。

(増山) 市民活動を支援するため、NPO法人に市役所の部屋を貸すことをぜひやってほしい。

(藺田) これからなにをしなければいけないか、どう参画していけばいいのか事例を集める。市が本気になる提案をしたい。

- ・再編計画策定検討委員会は、5月8日 意見募集の報告があり、5月31日方針を話し合う。ぜひ、傍聴を。

## 未来の会 今後の予定

5月27日 第13回学習会開催 市民フォーラム 4F学習室にて。

## 出席者より発言

生まれは町田市で、現在は相模原市に在住。文学館、自由民権資料館はよく利用。しかし、中央図書館で明治の新聞はないと言われ、市町村史誌もなく、予算がないと言われた。各施設でのデータベース化が図れないか。あっても学芸員以外は触れられないところもある。情報公開してほしい。また、町田市は命に関わる事への施策が不足している。病気になると、市民病院がだめだから、他市へ行く。施設も健常者を基準にしていて、高齢者参加者を基準にしていないので、いつまで参加できるかと思う。

(記録・庄司)